



古河電気工業株式会社

2027 年 3 月期第 1 四半期決算説明会

2026 年 8 月 6 日

[登壇者]

1 名

代表取締役 兼 執行役員常務 CFO

青島 弘治（以下、青島）

古河電工グループ 2026年度第1四半期決算

2026年8月6日

古河電気工業株式会社

代表取締役 兼 執行役員常務 CFO 青島 弘治

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

青島：CFO の青島でございます。それでは、私より 26 年度第 1 四半期決算および 26 年度通期予想についてご説明いたします。

Agenda

26年度Q1実績および26年度予想のポイント

- 26年度Q1実績のポイント
- 26年度Q1実績-要約P/L、売上高・営業利益の増減要因
- 26年度予想の見直しについて
- 26年度予想-要約P/L、セグメント別 営業利益
- セグメント別 売上高・営業利益
- 26年度Q1実績-要約B/S
- 設備投資額・減価償却費・研究開発費

補足資料 – Appendix

2026年3月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2026年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

3

3 ページをご覧ください。本日は、こちらのアジェンダに沿って説明します。

26年度Q1実績のポイント

- データセンタ関連製品の売上増加等により前年比で増収増益
- Q1実績としては2001年度以降過去最高値（売上高および各段階利益）

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
3,652億円 前年比 +715億円 増減率 +24%	255億円 前年比 +171億円 増減率 +205%	310億円 前年比 +233億円 増減率 +304%	222億円 前年比 +171億円 増減率 +335%

	FY25 Q1	FY26 Q1	前年比
銅建値平均（円/kg）	1,424	2,220	+796
為替平均（円/米ドル）	145	160	+15

4

4 ページをご覧ください。26 年度第 1 四半期決算のポイントです。

データセンター関連製品の売上増加等により、前年比増収増益となりました。営業利益は前年比約 3 倍、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前年比約 4 倍となり、第 1 四半期の実績としては、売上高および各段階損益において、2001 年度以降で過去最高値となりました。

26年度Q1実績-要約P/L

(単位：億円)				
	FY25 Q1	FY26 Q1	前年比	主な増減内訳 (Q1)
	a	b	b-a	
売上高	2,937	3,652	+715	6ページ参照
営業利益	83	255	+171	7ページ参照
(率)	2.8%	7.0%	+4.1	
受取/支払利息	▲ 20	▲ 22	▲ 3	
持分法投資損益	21	59	+38	・ 持分法適用関連会社が好調
為替損益	▲ 23	▲ 5	+18	
経常利益	77	310	+233	
(率)	2.6%	8.5%	+5.9	
特別損益	▲ 1	1	+2	
法人税等	▲ 17	▲ 80	▲ 62	
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 7	▲ 8	▲ 1	
親会社株主に帰属する 当期純利益	51	222	+171	
(率)	1.7%	6.1%	+4.3	
銅建値 平均 (円/kg)	1,424	2,220	+796	
為替 平均 (円/米ドル)	145	160	+15	

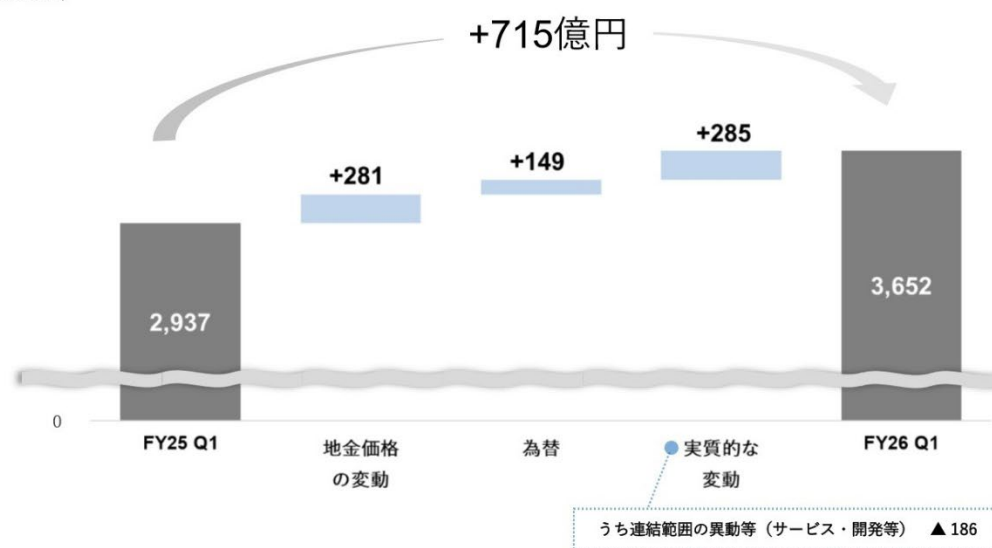
5

5 ページをご覧ください。売上高と営業利益については、次ページ以降の増減要因で説明いたしますが、その他の項目について補足いたします。

持分法投資損益が、好調により前年比でプラス 38 億円、為替差損益が、円安影響により前年比でプラス 18 億円改善しました。

26年度Q1実績-売上高の増減要因

(単位：億円)



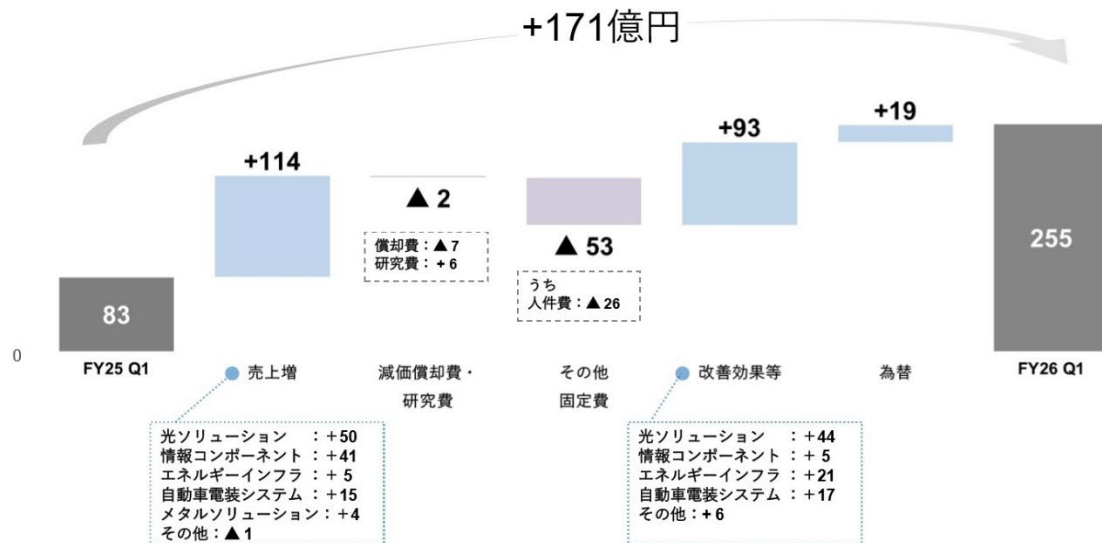
6

6 ページは、売上高増減要因です。

売上高は前年同期比プラス 715 億円です。地金価格の変動は銅価格高騰によりプラス 281 億円、円安による為替影響はプラス 149 億円、連結範囲の移動等を含めた実質的な変動はプラス 285 億円となります。実質的な変動の主な内訳は、連結範囲の異動で 186 億円減少した一方、光ソリューションで約 140 億円増加、情報コンポーネントで約 110 億円増加、自動車電装システムで約 60 億円増加、メタルソリューションで約 140 億円増加となりました。

26年度Q1実績-営業利益の増減要因

(単位：億円)



7

7 ページは、営業利益の増減要因です。

売上増により 114 億円のプラスです。主な内訳は光ソリューションで 50 億円、情報コンポーネントで 41 億円、エネルギーインフラで 5 億円、自動車電装システムで 15 億円、メタルソリューションで 4 億円のプラスとなりました。固定費は主に人件費増加によるものですが、改善効果等で 93 億円カバーしました。

為替影響は、円安により 19 億円のプラス、全体ではプラス 171 億円となりました。

26年度予想の見直しについて

- Q1実績および事業環境を踏まえ予想を見直し
- 26年度の年間配当予想は、2026年5月12日公表の1株当たり22円を据え置き（中間配当実施予定）

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
1兆5,300億円 前回予想比 +700億円 増減率 +5%	1,230億円 前回予想比 +280億円 増減率 +29%	1,430億円 前回予想比 +430億円 増減率 +43%	1,050億円 前回予想比 +230億円 増減率 +28%

	FY26 前回予想*	FY26 Q1	FY26 Q2-Q4前提	FY26 予想
銅建値平均（円/kg）	2,000	2,220	2,230	2,227
為替平均（円/米ドル）	150	160	160	160

* 2026/5/12公表

8

8 ページは、26 年度通期予想です。

第1四半期決算の実績および事業環境を踏まえ、売上高および各段階損益の通期予想を上方修正します。26年度の年間配当予想は5月公表時の1株当たり22円を据え置きます。なお為替と、同建値の前提を見直しております。

26年度予想-要約P/L

(単位：億円)	FY25			FY26前回予想*			FY26予想			前年比	前回予想比
	H1	H2		H1	H2		H1	H2			
	a			b			c			c-a	c-b
売上高	6,107	6,969	13,076	7,000	7,600	14,600	7,200	8,100	15,300	+2,224	+700
営業利益	191	447	639	350	600	950	495	735	1,230	+591	+280
(率)	3.1%	6.4%	4.9%	5.0%	7.9%	6.5%	6.9%	9.1%	8.0%	+3.2	+1.5
受取/支払利息	▲ 39	▲ 41	▲ 80	—	—	—	—	—	—	—	—
持分法投資損益	51	115	165	—	—	—	—	—	—	—	—
為替損益	▲ 20	21	2	—	—	—	—	—	—	—	—
経常利益	203	556	759	370	630	1,000	605	825	1,430	+671	+430
(率)	3.3%	8.0%	5.8%	5.3%	8.3%	6.8%	8.4%	10.2%	9.3%	+3.5	+2.5
特別損益	4	287	291	5	205	210	10	175	185	▲ 106	▲ 25
法人税等	▲ 62	▲ 228	▲ 290	—	—	—	—	—	—	—	—
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 15	▲ 18	▲ 34	—	—	—	—	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	129	597	725	250	570	820	425	625	1,050	+325	+230
(率)	2.1%	8.6%	5.5%	3.6%	7.5%	5.6%	5.9%	7.7%	6.9%	+1.3	+1.2
銅建値 平均 (円/kg)	1,461	1,929	1,695	2,000	2,000	2,000	2,225	2,230	2,227	+532	+227
為替 平均 (円/米ドル)	146	155	151	150	150	150	160	160	160	+9	+10

* 2026/5/12公表

9

9 ページは、26 年度通期予想の要約 P/L です。

売上高は前回予想比プラス 700 億円で、うち為替影響によりプラス 300 億円、銅価格高騰によりプラス 200 億円がそれぞれの指標変更によるものです。営業利益は、前回予想比プラス 280 億円。こちらについては次ページで説明いたします。

経常利益は、営業利益の見直しに加え、持分法投資損益を見直し、前回予想比プラス 430 億円、親会社株主に帰属する当期純利益はプラス 230 億円の上方修正です。

26年度予想-セグメント別 営業利益

■ データセンタ関連製品の需要は引き続き旺盛

(単位: 億円)

セグメント	FY25			FY26 前回予想			FY26予想			前回 予想比	増減益要因
	H1	H2		H1	H2		H1	H2			
			a			b			c	c-b	
光ソリューション	7	100	107	110	160	270	185	245	430	+160	データセンタ関連製品等の 売上増
情報コンポーネント	63	97	159	100	290	390	155	355	510	+120	
エネルギーインフラ	28	72	100	40	30	70	40	30	70	-	
自動車電装システム	103	160	264	120	110	230	125	105	230	-	
メタルソリューション	16	18	34	10	30	40	15	25	40	-	
連結合計 (サービス・開発等* 消去等を含む)	191	447	639	350	600	950	495	735	1,230	+280	

* 電池事業のFY25実績値は、サービス・開発等を含む (FY25 Q3まで連結)

10

10 ページは、セグメント別営業利益の 26 年度見通しについてです。

前回予想比プラス 280 億円を見直し、年間予想を 1,230 億円とします。データセンター関連製品等の売上が増加しており、光ソリューションはプラス 160 億円、情報コンポーネントはプラス 120 億円を上方修正します。

セグメント別 売上高・営業利益（光ソリューション）

FY26 Q1

(単位：億円)

	FY25	FY26	前年比
	a	b	b-a
売上高	412	600	+188
営業利益	▲ 7	92	+99

【増減益要因】

(+) データセンタ関連製品等の売上増

*1 2026/5/12公表

*2 VSFF (Very Small Form Factor)

FY26 通期予想

(単位：億円)

	FY25	FY26 前回予想 ^{*1}	FY26 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,969	2,400	2,650	+681	+250
営業利益	107	270	430	+323	+160

事業環境の認識

- データセンタ関連製品の需要増による需給のタイト化

注力ポイント

- データセンタ関連製品の開発・増産・拡販

ローラブルリボンケーブル・
ソリューション

MTフェルール・
VSFF^{*2}コネクタ

特殊ファイバ
(海底用・アンプ用等)

11

11 ページからは、セグメント別の状況について説明します。まずは光ソリューションです。

1Q 実績は、光ケーブルや海底線等の特殊ファイバー、MT フェルールといったデータセンター関連製品の売上が増加し、営業利益は前年同期比増益となりました。通期予想は 1Q 実績が好調だったこと、今後もデータセンター関連製品の需要増が継続することから、前回予想を見直しいたします。

セグメント別 売上高・営業利益（情報コンポーネント）

FY26 Q1

（単位：億円）

	FY25	FY26	前年比
	a	b	b-a
売上高	449	596	+147
営業利益	36	74	+38

【増減益要因】

（＋）データセンタ関連製品等の売上増

*1 2026/5/12公表

*2 DFBレーザチップ
（Distributed Feedback Laser：分布帰還形レーザ）
ラマン増幅用励起光源
SOA（Semiconductor Optical Amplifier：半導体光増幅器）

FY26 通期予想

（単位：億円）

	FY25	FY26 前回予想 *1	FY26 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,980	3,100	3,250	+1,270	+150
営業利益	159	390	510	+351	+120

事業環境の認識

- データセンタ関連製品の需要増による需給のタイト化

注力ポイント

- データセンタ関連製品市場向け高付加価値製品の増産・拡販
 - 水冷モジュールの増産
 - 銅箔の製品ミックス転換（高周波基板用銅箔）
 - 光半導体関連製品の増産

高機能
放熱・冷却
製品

高周波
基板用
銅箔

光半導体
関連製品 *2

HDD用薄型
アルミ
ブランク材

半導体
製造用
テープ

高機能
フォーム
製品

12

12 ページは、情報コンポーネントです。

1Q 実績は、データセンター関連製品の売上増により、営業利益は前年同期比増益となりました。

通期予想は、データセンター関連製品の需要増が継続することから、前回予想を見直します。

セグメント別 売上高・営業利益（エネルギーインフラ）

FY26 Q1

（単位：億円）

	FY25	FY26	前年比
	a	b	b-a
売上高	328	360	+32
営業利益	9	30	+21

【増減益要因】

- (+) 国内地中線が堅調
- (+) 中国子会社の連結除外
- (+) 機能線の売上増

*1 2026/5/12公表

*2 HVDC (High Voltage Direct Current)：高電圧直流送電

FY26 通期予想

（単位：億円）

	FY25	FY26 前回予想 *1	FY26 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,388	1,300	1,300	▲ 88	-
営業利益	100	70	70	▲ 30	-

事業環境の認識

国内超高压	堅調な国内地中線の更新・再エネ関連需要
海底線	
機能線/部品	堅調な需要

注力ポイント

- ケーブル製造および工事施工能力の増強

国内超高压・海底線

再エネ関連

HVDC *2

- マーケティング活動の推進による拡販

らくらくアルミケーブル®

機能線

送配電部品

13

13 ページは、エネルギーインフラです。

1Q 実績は国内地中線が好調です。中国子会社の連結除外によるプラス効果、機能線の売上が増加したことから、営業利益は前年同期比で増益となりました。通期予想は前回予想に織り込んだ、国内超高压、海底線、機能線が堅調な需要は変わらないため、通期見通しを据え置きます。

セグメント別 売上高・営業利益（自動車電装システム）

FY26 Q1

（単位：億円）

	FY25	FY26	前年比
	a	b	b-a
売上高	830	920	+90
営業利益	53	64	+11

- ・ 市場環境は概ね堅調で前年並み

* 2026/5/12公表

FY26 通期予想

（単位：億円）

	FY25	FY26 前回予想	FY26 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	3,575	3,600	3,600	+25	-
営業利益	264	230	230	▲ 34	-

事業環境の認識

- ・ 顧客の自動車生産台数は前年並み
- ・ 不透明な中東情勢・米国関税動向

注力ポイント

- ・ 米国関税政策影響への対応
- ・ 組立自動化の推進
- ・ 電動車市場に向けた製品開発

アルミワイヤハーネス・高電圧対応品

14

14 ページは、自動車電装システムです。

1Q 実績は、自動車部品の売上が堅調であったことから、営業利益は前年同期比で増益です。通期予想は据え置きますが、不透明な中東情勢、米国関税の動向は引き続き注視します。

セグメント別 売上高・営業利益（メタルソリューション）

FY26 Q1

（単位：億円）

	FY25	FY26	前年比
	a	b	b-a
売上高	785	1,217	+431 ^{*1}
営業利益	8	8	▲ 0

- ・ 市場環境は概ね堅調で前年並み

	FY25		FY26			
	Q1	通期	前回 予想 ^{*2}	Q1	Q2-Q4 前提	通期 予想
銅建値平均 (円/kg)	1,424	1,695	2,000	2,220	2,230	2,227
為替平均 (円/米ドル)	145	151	150	160	160	160

^{*1} 銅価・為替変動の影響を含む

^{*2} 2026/5/12公表

FY26 通期予想

（単位：億円）

	FY25	FY26 前回予想 ^{*2}	FY26 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	3,729	4,450	4,750	+1,021	+300 ^{*1}
営業利益	34	40	40	+6	-

事業環境の認識

- ・ エレクトロニクス関連製品需要は緩やかな回復傾向

注力ポイント

- ・ 高付加価値製品の拡販による製品ミックス改善

無酸素銅製品群
(パワー半導体・放熱部品用)

高機能抵抗材
(スマートフォン・xEV用)

リボン線・角線
(高性能インダクタ・メモリ用)

15

15 ページは、メタルソリューションです。

1Q 実績は銅価高騰により、前年同期比で売上高が増加しました。通期予想は足元の銅価格などを反映し、売上高を増加させました。

26年度Q1実績-要約B/S

(単位：億円)	FY25末	FY26 Q1末	増減
	a	b	b-a
流動資産	5,955	6,270	+314
現金及び預金	692	607	▲ 84
受取手形、売掛金及び契約資産	2,665	2,908	+244
棚卸資産計	2,109	2,246	+137
固定資産	4,709	5,043	+335
有形固定資産	2,769	2,890	+121
無形固定資産	254	255	+1
投資その他の資産	1,685	1,898	+213
資産合計	10,664	11,313	+649
流動負債	4,287	4,632	+346
固定負債	2,025	2,131	+107
負債合計	6,311	6,763	+452
株主資本	3,562	3,636	+75
その他の包括利益累計額	609	733	+124
非支配株主持分	182	180	▲ 2
純資産合計	4,352	4,549	+197
負債・純資産合計	10,664	11,313	+649
自己資本比率	39.1%	38.6%	▲ 0.5
NET有利子負債	2,475	2,921	+446
NET D/Eレシオ	0.59	0.67	+0.07

資産合計 649億円 増加

売上の伸長に伴う運転資本の増加

16

16 ページは、要約バランスシートです。

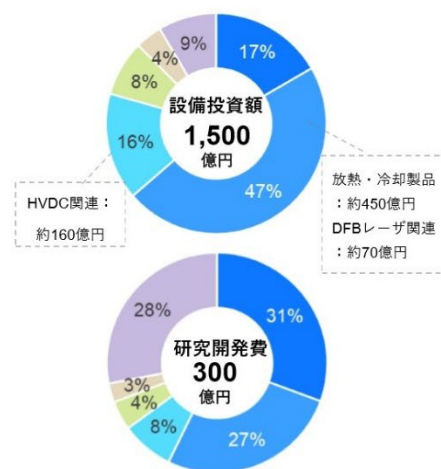
総資産は1兆1,313億円で、前年度末より649億円増加です。主に売上伸長に伴う運転資本の増加によるものです。各経営指標はいずれも悪化しておりますが、全て想定内です。

設備投資額・減価償却費・研究開発費

■ 通期予想は据え置き

	2026/5/12公表					
	FY25 Q1	FY26 Q1	前年比	FY25	FY26 予想	前年比
	a	b	b-a	c	d	d-c
設備投資額	89	205	+116	567	1,500	+933
減価償却費	104	106	+2	432	460	+28
研究開発費	76	66	▲ 10	284	300	+16

放熱・冷却製品：約70億円
HVDC関連：約30億円



● 光ソリューション ● 情報コンポーネント ● エネルギーインフラ
● 自動車電装システム ● メタルソリューション ● サービス・開発等

17

次、17 ページは、設備投資額、減価償却費、研究開発費です。

データセンター関連製品の需要増に伴い増産投資を実施していることから、前年比で増加しています。設備投資額、減価償却費、研究開発費の見通しは、前回予想から変更はございません。

説明は以上となります。